
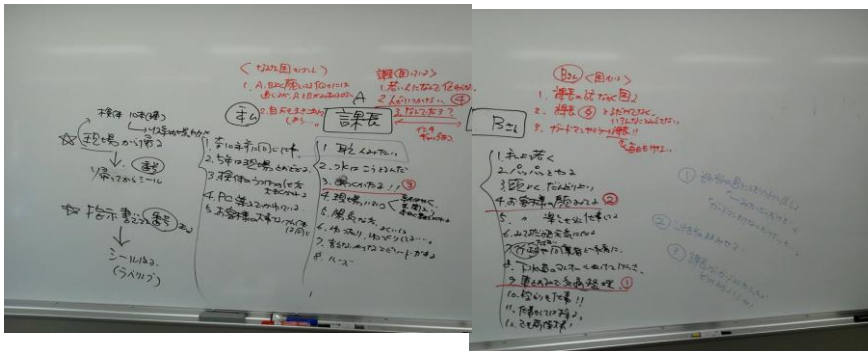



エクササイズ・セッション@ブルールーム

テーマ	「思い」を「カタチ」に ～話し合いを促進する技術「ファシリテーション」の活用～
開催日、時間	2011年 11月 20日 10:00～12:40
会場	名古屋市中小企業振興会館4F 第3会議室(ブルールーム)
ファシリテーター	堀公俊(関西支部)・鈴木まり子(東京支部)
セッション担当	齊藤俊哉
参加者数	98人 (会員39名、一般59名)
セッション内容	<ul style="list-style-type: none">・20枚の様々な言葉が書かれたカードの共通点を見つけて5つのグループに分ける。・いくつかのパターンでグループ分けができたかをチームで競う。・「話し合いがうまくいったらどのような世の中になるか」というテーマで、チーム単位でカードを使った構造化にチャレンジ。各自の思いをカードに書き出した後、カードをグループ化し、各グループの内容を表すメッセージを考える。・メッセージは陳腐にならず、なるべくとがった言葉を選ぶ。・さらにグループをまとめていき、グループ同士の関係を明らかにする。
気づいたこと	<p>堀さんとちびまりさんの軽快なトークで和やかな雰囲気が始まった。けれどもワークでは、堀さんの厳しい指摘や問いかけに身を引き締めたり、エッジのきいた言葉を探し求めて頭をさんざん絞ったりと、濃密な時間を過ごすことができたように思う。</p> <p>参加者は、思考停止に陥ってありきたりの結果を出すことで満足せず、カードの自由な組み合わせで柔軟に発想し、とことん考え抜くことの重要性を学ぶことができた。</p>
実施風景	



エクササイズ・セッション@レッドルーム

テーマ	元気になる会議 ～ ホワイトボードミーティングのすすめ方 ～
開催日、時間	2011年 11月 20日 10:00～12:40
会場	名古屋市中小企業振興会館4F 第4会議室(レッドルーム)
ファシリテーター	ちょんせいこ(関西支部)
セッション担当	なる、Bara、すばる、とぼっち
参加者数	参加者数 28人 (会員18名、一般10名)
セッション内容	<p>オープニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 教室スタイルでちょんさんのお話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> 自分らしく生きるには? →「心の体力」を温める 集団の中で自分らしく生きるためには? ペア・コミュニケーション・ワーク <ul style="list-style-type: none"> 2人一組(隣り、前後、ななめ)になって自己紹介、大好きな果物などを紹介しあう ホワイトボードを使ってのグループ(4人一組)ワーク <ol style="list-style-type: none"> ①皆で場づくりをして、4人一組のグループ分け ②情報共有会議(休日の過ごし方)体験 <ul style="list-style-type: none"> 一人ずつ順番にファシリテーター役と議題提供役を体験、「自分について」、「休みの過ごし方」を共有 ③計画づくり会議(クリスマスパーティの開催)体験 <ul style="list-style-type: none"> 「準備するもの」、「期限別に分類」、「担当決め」を話し合い ホワイトボードを使ってのケース会議ワーク実演 <ul style="list-style-type: none"> 参加者の一人に問いかけながら、困っていることの解決方法を見い出す「ケース会議ワーク」を、ちょんさんが実演。 <p>クロージング</p>
気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人が集まってよかった。 ・書いたものを見ながら話し合いを進める体験や実践ができて良かった。 ・ホワイトボードに書いていくスキルも大事だけど、その場に立つファシリテーターが作りだす場の空気が、とても重要だと考えました。 ・もう少し時間が欲しかった。 ・解説が欲しかった。 ・ファシリテーションについて分かったことをこれから活かしていきたい。
実施風景	<p>〈ホワイトボードを使ってのケース会議ワーク実演〉</p> 


エクササイズ・セッション@グリーンルーム

テーマ	「マインドマップ(R)でぐ〜んと見える化しよう！」 〜ファシリテーション出の活用法を知り体感する〜
開催日、時間	2011年 11月 20日 10:00~12:40
会場	名古屋市中小企業振興会館4F 第2会議室(グリーンルーム)
ファシリテーター	大嶋友秀(東京支部)
セッション担当	杉原廣二
参加者数	26人 (会員18名、一般10名)
セッション内容	<p>「守」「破」「離」のフレームで、ワークを中心とし組み立てられ、チベタンベルやクッシュボールなどの小物も活用された楽しいセッションだった。</p> <p>チェックインでは、順番を決めるのにクッシュボールが有効に活用されアイスブレイクにもなった。</p> <p>「守」では、マインドマップの活用例の紹介があり、その後ミニマインドマップを描き自己紹介。</p> <p>「破」では、ミニとフルのマインドマップの違いのレクチャーの後、外国人に紹介したい中部をテーマに話し合い、ミニマインドマップでファシグラをした。</p> <p>「離」ではフルマインドマップのキーポイントであるBOI(Basic Ordering Idea)の解説があり、その後ワークを実施。個人でミニマインドマップを描き、それを基に共通BOIを決め、個人でアイデアを発散し、皆で考えTシャツフォーマットに書き込み最後にセントラルイメージを決めた。</p> <p>振り返り:時間の関係で簡単な振り返りを行なったが、チェックアウトは時間切れでできなかった。</p>
気づいたこと	<p>チェックインから一連の流れが非常にうまく組み立てられており、参加者をだんだん巻き込んでいくプロセスがダイナミックでした。</p> <p>マインドマップが発散だけでなく収束にも使える有効的な思考のツールだというメッセージは参加者に理解されたと思います。</p> <p>マインドマップは初心者で、興味はあるが実際に描くのは初めての人も多かったが、マインドマップの楽しさや有効性を理解いただき、実際に描いてみたいという意思を引き出せたと思われれます。</p>
実施風景	


ゲスト・ダイアログとプラクティス・セッション@ブルールーム

テーマ	人が繋がり、力がみなぎる
開催日、時間	2011年 11月 20日 12:30 ~ 17:00
会場	名古屋市中小企業振興会館4F 第3会議室(ブルールーム)
ゲスト	津村俊充(南山大学人文学部心理人間学科教授 南山大学人間関係研究センター長)、 水野節子(採用・販促支援(有)クリシェ代表、日本体験学習研究所研究員)、 成田有子(オフィスナリタ代表、臨床心理士)、 堀 公俊(日本ファシリテーション協会フェロー)
セッション担当	上井 靖、西野靖江、高橋康友
参加者数	71人
セッション内容	<p><ゲスト・ダイアログ></p> <p>①ゲスト紹介</p> <p>②ゲスト4人でダイアログ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各々の活動紹介 ・参加者からの質問をもとに、人が繋がり、力がみなぎるについて ・ファシリテーションの活用例、巻き込む力、繋がるために 等 <p>③休憩</p> <p><プラクティス・セッション></p> <p>④自由に話し合いのテーマ出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ例 :「困ったちゃんとかかわるか」、「ファシリテーターの在り方」、「ファシリテーションと成長」、「ファシリテーションを取り入れるために重要なこと」等 <p>⑤参加者が話し合いたいテーマごとに、グループを結成</p> <p>⑥各グループ毎に、ファシリテーターやグラフィッカーを選出し、見える化を意識し、ダイアログを重ねる。</p> <p>⑦グループ毎に成果物を発表</p> <p>⑧グループ毎にふりかえり</p>
気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・4人のゲストの方と参加者のみなさんと一緒になって、ダイアログの流れを創っていった。特に、参加者のニーズに基づいたゲストダイアログは、ファシリテーターによって、多様なファシリテーションが存在すること、多様な可能性あることを知ることを感じることができた。 ・ゲストダイアログだけでなく、グループ毎の話し合いでも、午前中の見える化のスキル(親和図法、マインドマップ、ホワイトボード)にチャレンジしながら、ダイアログが大いに展開され、会場一杯にファシリテーションが渦巻き、熱気にあふれた時間であった。ゲストの方も各グループに入り、ダイアログをさらにファシリテーションしていただいた。
実施風景	 

ゲスト・ダイアログとプラクティス・セッション@レッドルーム

テーマ	社会を変え、未来を創る
開催日、時間	2011年 11月 20日 12:30 ~ 17:00
会場	名古屋市中小企業振興会館4F 第4会議室(レッドルーム)
ゲスト	池住義憲(立教大学大学院 教授) 木村真樹(コミュニティ・ユース・バンク momo 代表理事) 古橋敬一(港まちづくり協議会 事務局次長) 鈴木まり子(日本ファシリテーション協会フェロー)
セッション担当	林加代子、村瀬直美
参加者数	参加者数 27人(会員9人、非会員18人)
セッション内容	<ul style="list-style-type: none"> ①ゲスト4人で、自己紹介 ②参加者全員、自己紹介(名前、仕事、なぜこのテーマを選んだのか) ③ゲスト4人から、テーマ「社会を変え、未来を創る」についての想いや感想など ④休憩 ⑤ダイアログから、話したいこと、思ったことをA4に記入し、似ている人たちでダイアログ ⑥全体で共有 ⑦池住さんの20分ワーク ⑧ゲストからひとこと
気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマが重いかなど思っていたが、参加した方々は熱い思いを持って参加してくださっていた。 一人ひとりの自己紹介があつて、よくわかった。 ・ゲスト4人でダイアログをしようと思っていたが、変更してこれはこれでよかつたと思う。 ・いろいろな視点からの社会の像があり、みなさん、変えたい、なんとかしたいという気持ちをもっていることが分かつた。 参加した人達は同士だということが共有できたような気がする。 ・池住さんの20分のワークについては、改めて気づくことが多かつた。 しかし、政治的なバイアスがかかっているという感想もあつた。 ここは、判断が難しいと思つた。
実施風景	

ゲスト・ダイアログとプラクティス・セッション@グリーンルーム

テーマ	場をつくり心をかきたてる
開催日、時間	2011年 11月 20日 12:30 ~ 17:00
会場	名古屋市中小企業振興会館4F 第2会議室(グリーンルーム)
ゲスト	西田真哉(トヨタ白川郷自然学校 学校長、聖マーガレット生涯教育研究所 所長)、 加藤慎康(大ナゴヤ大学 学長)、 源明典子((株)スコラ・コンサルト プロセスデザイナー)、 水野孝一((財)につぼんど直ん中祭り文化財団 専務理事)
セッション担当	鳥羽秀人、榊原章光、成瀬幸俊
参加者数	参加者数 37 人
セッション内容	<p><ゲスト・ダイアログ></p> <p>①ゲスト紹介、参加者インタビュー(午前の学び、セッションへの期待等)</p> <p>②ゲスト4人でダイアログ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各々の活動紹介、 ・思いをカタチにすること、仲間づくり ・さらに広げていくためのネットワークづくり、仕組み・環境づくり 等 <p><プラクティス・セッション></p> <p>③自由に話し合いのテーマ出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ例 :「思いを継続させるためには?」、「続ける原動力」、「場を育てていくのにあたって配慮すること」、「異質メンバーが笑顔になる場づくり」、「既存の組織を変えたいのか?新しい組織をつくりたいのか?」、「自分事にするには?」等 <p>④休憩</p> <p>⑤参加者が話し合いたいテーマを選びグループを結成</p> <p>⑥各グループ毎にファシリテーター、グラフィッカーを選任して話し合い</p> <p>⑦休憩を兼ねて各グループの成果物を鑑賞</p> <p>⑧グループ毎にふりかえり(ファシリテーターへのフィードバック等)</p>
気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマやプロセスがあってないに等しいプログラムであり、ゲスト、参加者が一緒になって場をつくりあげたセッションだった。 「組織や場をつくる熱意・思い」、「継続していく困難さと努力」、「異質を受け入れる大切さ」等、ゲストが紡ぐ言葉から参加者が様々なインスパイアされ、プラクティス・セッションでの自律性に満ちグループの話し合いに実を結んだ。 ・グループ毎の話し合いでは、親和図法、マインドマップ、ホワイトボード等、午前中に習ったスキルにチャレンジする姿が見られ、見て楽しいアウトプットが生まれた。
実施風景	

クロージング・セッション

テーマ	クロージング・セッション
開催日、時間	2011年 11月 20日 17:00 ~ 18:00
会場	名古屋市中小企業振興会館4F 第3会議室(ブルールーム)
セッション担当	齊藤俊哉、村瀬直美、石田浩一
セッション内容	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく今日初めて会う人でグループを作り、ふりかえりを行なう。 ・各グループで「ファシリテーションの力って何だろう?」というテーマで話し合い、グループの意見をA3用紙に記入する。 ・全員が1つの部屋に集まり、グループ代表が順番に話し合いの結果を発表する。 ・各グループの発表内容を元に、大嶋さんに「ファシリテーションの力って何だろう?」のマインドマップを描いてもらう。
気づいたこと	<p>人数の多さと時間の短さで、グループでの十分な話し合いができなかった印象。参加者もクロージングの意義をあまり感じられなかったかもしれない。最後に全員が一堂に集まることにはやはりこだわりがあった。今日一日これだけの多くの人達と同じ時間を共有できたという思いは感じる事ができたように思う。</p> <p>大嶋さんには、今回のイベントを象徴する素晴らしいマインドマップを描いていただいた。</p>
実施風景	